

国立大学法人
宇都宮大学
UTSUNOMIYA UNIVERSITY

UU now

入学おめでとう!



特集1 新入生 入学 おめでとう!

学長、学部長から新入生へのメッセージ /
～A Day in the Life of an Utsunomiya University Student～宇大生の一

特集2 「地域の未来を科学の力で」 地域デザイン科学部 いよいよスタート!

地域デザイン科学部の教員が語る「理想のまちづくり」とは

CONTENTS

- 8 OB. OG. INTERVIEW
- 10 Welcome to 授業
- 11 Welcome to 研究室&ゼミ
- 12 研究keyword / 私の学生時代
- 14 UU News
- 16 INFORMATION

国際学部

「グローバル社会に対応できる能力」を身に付ける

田巻松雄 学部長

- ◆専門分野 / 社会学
- ◆主な授業科目
- 基盤：社会学入門
- 学部：国際社会論、地域社会論Ⅱ、現代日本社会論
- 大学院：国際都市問題論



Everybody, Welcome to Utsunomiya University!!

先日、ある講習会に参加したのですが、資料にあった一文が目に行きました。「我々は学ぶことをやめたときに、教えることをやめなければならない」。学生の皆さんに素晴らしいものを提供できるように、我々も学び続けます。グローバル化が進む現在、皆さんには、ぜひ、大学生活での多様な機会を活用して「グローバルな社会に対応できる能力」を向上させてほしいと思います。

地域デザイン科学部

地域の未来を科学の力で

塚本 純学部長

- ◆専門分野 / 経済学 (理論経済学・経済政策論)
- ◆主な授業科目
- 基盤：経済分析入門
- 学部：経済学概論、経済政策論、地域デザイン学序論A
- 大学院：経済学特論A



皆さん、入学おめでとうございます。

地域デザイン科学部は、この4月発足の新しい学部です。「地域の未来を科学の力で」をキャッチフレーズに、教育・研究に取り組みます。都市、農村、豊かな自然など栃木の多様なフィールドとのつながりを大切にしながら、地域の「知の拠点」として活動したいと考えています。文系から理系、実践家から理論家、持ち味のある魅力的な教員がいます。第一期生の皆さん、ともに地域で活動し学びながら、地域デザインを作り上げていきましょう。

特集1

新入生 入学

おめでとう!

宇都宮大学

キミ達の夢を実現するための最高の学び舎にしたい



石田朋靖 学長

- ◆プロフィール
- 1955年生まれ。群馬県出身
- 東京大学大学院農学系研究科博士課程修了
- 1983年 山形大学農学部助手
- 1991年 山形大学農学部助教授
- 1992年 宇都宮大学農学部助教授
- 2000年 宇都宮大学農学部教授
- 2005年 宇都宮大学評議員(兼務)
- 2008年 宇都宮大学農学部長(兼務)
- 2009年 宇都宮大学理事・副学長
- 2015年 宇都宮大学学長
- ◆専門分野 / 生物環境物理学、農学環境工学

新入生の皆さん、ようこそ宇都宮大学へ。キミ達は授業や海外留学、サークル活動やボランティア活動、インターンシップやアルバイトなど、キャンパス内外でのさまざまな場面で自分を成長させてくれる多くの学びを経験するはず。そうした中でぜひとも育んでいただきたいのが、3C精神という宇都宮ピリットです。

これは(Challenge (主体的に挑戦) / Change (自らを変え) / Contribution (社会に貢献する))という姿勢であり、急速に変化する社会の中で活躍するには、個人としても組織としても、欠くことができないものと考えています。そして、今年度から新設された地域デザイン科学部は、日本ではじめての全く新しいコンセプトによって構想された学部であり、あらゆる社会に貢献するための宇都宮の挑戦のひとつでもあるのです。キミ達には、こうした宇都宮ピリットのDNAを受け継ぎ、ぜひとも将来への大きな夢を膨らませ、10年後20年後にどんな自分になっていたかを描いてほしいと思います。そしてその夢に向かって、挑戦し変わっていく勇氣と行動力を養ってほしいと思っています。

私は、宇都宮大学を、学生を日本でいちばん大切に育てる大学にしたい、そしてキミ達の夢を実現するための最高の学び舎にしたいと思っています。



教育学部

ようこそ、教育学部へ!!

伊東明彦 学部長

- ◆専門分野 / 理科教育学、地球物理学
- ◆主な授業科目
- 学部：初等理科教育法、中等理科教育法、理科教材実験法A、環境地球科学
- 大学院：理科教授・学習過程論、授業研究



入学おめでとうございます。4年間は、大変短い時間ですが、その中で、教員という職業の素晴らしさと教員としての力量をしっかりと学び取ってほしいと思います。

教育学部では皆さんの夢が実現するよう精一杯サポートします。

工学部

キラリと光る若い日々を

阿山みよし 学部長

- ◆専門分野 / 視覚科学、認知科学、色彩科学、感性工学
- ◆主な授業科目
- 学部：プログラミング入門I、認知科学
- 大学院：色彩工学特論、視覚情報処理特論



ご入学・進学、おめでとうございます。学部新入生の皆さんには、勉学に励むことはもちろんですが、ぜひ部活動やサークルに入って若い時にしか築けない交友関係を作ってほしいと思います。大学院生の皆さんには、専門分野のグローバルなエスโตรロになる覚悟で研究に取り組み、学会発表や論文など成果を形にしてほしいと思います。健康に留意し、よく学び、よく遊び、宇大での時間が一人ひとりとってかけがえのないものになることを祈っています。

農学部

大学生活ベーシックコンセプト

新入生の皆さん、入学おめでとう! これから4年間、農学を基本に幅広く勉強し、まずは最重要の「頭脳を鍛えて」ください。次に「世界に目を向けて」みましょう。今は海外に簡単に行け、インターネットで外国とコミュニケーションがとれる時代です。そして最後に、「respectとaccept」の基本を理解しましょう。相手の立場を尊重し、受け入れることがコミュニケーションの第一歩です。詳しくはウェブなど別の機会に。

夏秋知英 学部長

- ◆専門分野 / 農学、植物病理学
- ◆主な授業科目
- 学部：基礎分子生物学、植物保護学、植物ウイルス学、生物科学実験
- 大学院：植物感染生理学特論





8:00 起床



宇大は英語教育に力を入れている大学です。入学時、1年終了時、2年終了時に全員がTOEICを受験します。この日の「Advanced English I (TOEIC)」の授業は英語力の育成を図る授業で、ネイティブの先生と接する機会は、とてもいい経験です。

12:50 授業



14:30 自習

高校に比べて授業の進み方が早いので事前に予習をしておくとう理解度が違ってきます。応用化学科ではレポート提出や課題が出される授業もあるので、自習が欠かせません。サークル活動のある日は部室で自習をすることがあります。

新入生のみんなへ

私も入学当初は不安でしたが、そんなに構えないでも何とかなっていくものです。ただ、ちょっとだけ積極性を持ってたりするのが大切な。自分が不安に思っているように相手も不安、ちょっとだけ頑張って話しかけてみる。私は新歓が終わるころにサークルや学科の友だちができました。いろんな人と話す機会が増えてくると楽しくなるし、世界が広がっていくように感じられます。

A Day in the Life of an Utsunomiya University Student

宇大生の一日常

10:30 授業



私は受験勉強をしている時に化学に興味を持ち応用化学科を選びました。この日は「錯体化学」の授業。大学は高校とは違う視点で掘り下げた勉強になり難しいのですが、やはり化学はおもしろい新しい発見があります。1年生の時は授業の大半が講義形式で、2年生から実験の授業が始まります。

工学部応用化学科2年 下山汐里



国際学部国際社会学科3年 吉田香



「地球環境政策論」という授業で、自分たちの暮らしが様々な環境問題にどうつながっているかを知ることができました。宇大は大学全体で「アクティブ・ラーニング」を積極的に取り入れています。国際学部の授業もグループワークやディスカッション、プレゼンテーションをする機会が多いです。こうした経験は社会に出てからも必要になると思うので、積極的に取り組んでいます。

昼食は生協で弁当を買ってラーニング・コモンズ(自主的な学修のために24時間いつでも自由に利用できる学びの空間)で食べたり、友人と一緒に学食でとっています。時間に余裕があるときはキャンパス周辺のお店に行くことも。

12:00 昼食



8:50 授業

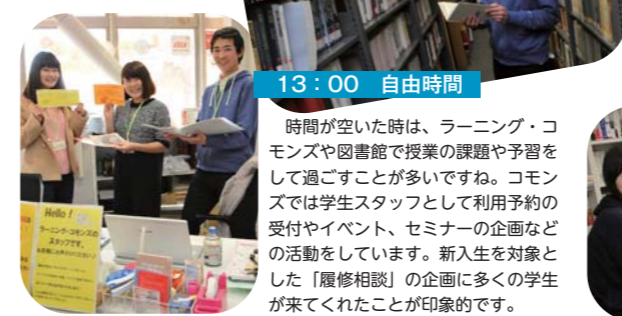


10:30 授業



「グローバル化と外国人児童生徒教育」という授業です。外国人児童生徒教育は卒業研究とも関わるので、関心を持っている分野です。3年次の「東南アジア論実習」という授業ではタイを訪れ、スラム街に住む子ども達の支援に関わるNGO関係者にインタビューして、自分たちと違う環境に生きる人々のことを意識するようになりました。

13:00 自由時間



時間が空いた時は、ラーニング・コモンズや図書館で授業の課題や予習をして過ごすことが多いですね。コモンズでは学生スタッフとして利用予約の受付やイベント、セミナーの企画などの活動をしています。新入生を対象とした「履修相談」の企画に多くの学生が来てくれたことが印象的です。

17:00 湯本浩之先生のゼミ



ゼミでは、人権教育に関する研究を行っています。先生は一つひとつの疑問に丁寧に答えて下さいます。学生からも活発に意見が出て、議論が出来るので、とてもアットホームな雰囲気の中で深く学ぶことが出来ています。

18:30 サークル活動



いわゆる体育系の部活ですが、自主的な練習の雰囲気勉強と両立できそうだと感じました。学生たちだけで工夫し、週5日練習します。春・秋のリーグ戦(「関東新学生野球連盟」加盟)と夏の関東甲信越大学体育大会が大きな大会です。

12:00 昼食



キャンパスと自宅が近いので家で食べたり、時間に余裕がない時は生協でお弁当を買って次の授業の教室で昼食をとることが多いです。この日は友人と一緒に陽東キャンパスのラーニング・コモンズで。

18:00 サークル活動



「新歓」でいくつかのサークルの話を聞いて楽しそうなお話だったので混声合唱団に入りました。サークルの大きな魅力は友だちができること。一緒にごはんに行ったり、カラオケやパーベキュー、クリスマス会などをしたり。この日は定期演奏会に向けての練習です。

19:00 アルバイト



キャンパス近くのショッピングモールの飲食店でアルバイトをしています。バイト先は学生でも一人の社会人として対応しますので、挨拶や時間厳守など社会に出るための準備もできていい経験になっています。



新入生が気になる「サークルの新歓」って、どんな感じ?

新入生のみんなが気になることといえば、授業の登録とか生活面での話とか、いろいろあると思うけど、サークル活動にも興味津々だよ。今回は入学直後に行われるサークルの「新歓」について、宇太が新入生歓迎・大学祭実行委員会委員長の教育学部1年佐竹樹樹さんに聞いてみたよ。



Q サークルの新入生への勧誘(新歓)って、具体的にどんなことをするの?

A 宇都宮大学の学生サークルが、陽東キャンパスのメイン通りでサークルのチラシを配布したり、テントでサークルの活動の内容を紹介したりします。そこで見たいと思ったサークルがあれば、各サークルで詳しい説明会があったり、交流イベントがあるのでそういったイベントに参加してサークルへの加入を決めることが多いですね。



Q 新歓はいつくらいに始まるの?

A 新入生が大学に顔を出す4月6日から始まります。入学式のある6日からオリエンテーションのある8日の間は、もっとも新歓活動が盛大に行われます。両手に持ちきれないほどのチラシをもらったりしますよ。

その後もたくさんサークルが4月末ごろまで新歓活動を続けます。なのでじっくり気に入ったサークルを選んでみてください。



Q 今年の新入生に、サークル選びのアドバイスはありますか?

A 気になるサークルがあれば、どんどんそのサークルの新歓イベント、説明会に参加してみるのいいと思います。説明会に参加したのに加入しなくて大丈夫かな?とか心配する人もいます。たぶんそんな心配はしなくて大丈夫です。たくさん説明会・イベント等に積極的に参加して、自分にピッタリなサークルを選んでみてくださいね。

はい、佐竹さんどうもありがとうございます!宇太も新歓のこと詳しくなっちゃった。ぜひ新入生の皆さん自分にぴったりのサークルに入って、宇大でのキャンパスライフをより充実したものにしてね!みんなにいい出会いがありますよ!

Department of Architecture & Urban Design



一人ひとりが自分にとって一番良いかたちで、まちにつながる

私は、長年、環境心理学という分野の研究をしてきました。環境心理学は利用者の気持ちを受けとめ、利用者にとって望ましい空間をつくるためには何が求められているのかを評価、収集し、計画に活かしていく学問です。

例えば学校には指導要領という共通フォーマットがありますが、地域の暑い寒いによって体育の授業内容も変わったりするなど、実際には一校ごとに違うニーズを持っていると思います。このように、その場所の特性、地域文化なども地元の



建築都市デザイン学科
古賀 誉章 准教授

専門分野：建築安全学、建築計画学
主な授業科目：バリアフリー建築論、高齢者防災論

方に聞いて吸い上げていかなないと、よい空間はできません。

これまで実際に利用する人たちに寄り添って考えてきたので、私にとっての望ましいまちづくりとは、一人ひとりが自分にとって一番良いかたちでまちとつながっていくことだと考えます。合理的な判断をする人ばかりではありません。できるだけ多くの人に納得してもらうことが大切だと思います。

新学部は、地域とのより直接的な関わりの中で、実際に起こしていることから学び、課題を見つけ、解決策と一緒に考えていくということかたちで地域に力添えができるのではないかと考えます。

建築では、課題や要求性能の整理に科学的・合理的な視点が求められる一方で、誰も考えもしないような独創的なデザインによる解決策の提案も大事です。学生には自由な発想力と視野の広さを持つとともに、自分以外の意見、存在を理解し受けとめるような素養を育ててほしいと思っています。

Faculty of Regional Design

地域の未来を科学の力で

特集2 地域デザイン科学部 いよいよスタート!

地域デザイン科学部の教員が語る
「理想のまちづくり」とは



◆ 新学部動画のご紹介

「宇都宮大学地域デザイン科学部新しい地域づくりはここから始まる」

新学部及び各学科の特徴及びその魅力についてわかりやすく紹介している動画です。ぜひご覧ください。



地域デザイン科学部

検索



Department of Civil Engineering & Regional Design



心理学の手法も取り入れ、広い視野でまちづくりを考える

私の研究は建設マネジメントという分野で、公共事業に対する住民の理解を得る合意形成の手法や、その公共事業が住民にとってどれくらいの価値があるのか、というようなことを心理学的な手法も使いながら研究しています。

今までの土木工学というものは、例えば橋を計画する場合、いかに丈夫にするか、というようなハード面の研究に重点が置かれていたと思いますが、橋ができることにより地域の人の生活がいかに便利になるのか、完成後の維



社会基盤デザイン学科
松本 美紀 助教

専門分野：建設マネジメント
主な授業科目：合意形成、事業評価、防災教育

持管理の在り方、周辺地域だけではなく橋を中心にまち全体がどう変わっていくのか、そのようなところまで地域の方々と計画段階から一緒に考えながら、まちづくりを進められるようになっていけばと考えています。

マネジメントの対象は建造物だけではなくありません。防災や復興、少子高齢社会の問題もそうです。新しい学部では、従来の工学分野プラスアルファ、心理学的手法を含めてもう少し広い視野で複合的にまちづくりを研究していくことになりました。

学生には、できるだけ地域に入って、実際に地域の人たちと触れ合っほしいと思っています。学んだことと現実の違いなど、いろいろ影響を受けるとは思いますが、一つひとつの気づきが大事です。彼らの視点から見た地域への思いや考えには、我々が気づかない、まちづくりに活かせるヒントがたくさんあるのです。

Department of Community Design



まちづくりの中の情報共有の拠点として

私の研究分野である政治学、公共政策学は、決して遠い世界のものではなく、私たちの現在、未来に関わる制度や政策の決定や内容について学ぶものです。未来をつくるという意味では、学生の若い発想も重要です。学生と一緒に地域の問題について取り組んでいきたいと思っています。

政治や公共政策は、住民が積極的に参加することで、より地域の実態にあったものができるとは思います。残念なことには、政治への関心は高まらずあまり投票に行かないという現実があります。自分が参加し意見を表明すること



コミュニティデザイン学科
三田 妃路佳 准教授

専門分野：政治学、地方自治論
主な授業科目：公共政策入門、政治学概論、政策過程論

でよりよい政策、よりよい社会ができるという実感が生まれてくれば、状況は変わってくると思います。そのためには、多くの情報を共有する仕組みに関して真剣に考えないといけないと思います。

理想のまちづくりは、住民、議会、行政が情報を共有できている社会がベースになると考えます。様々な情報を得ることで議論や見解を深め、多くの人が納得のいく判断につながります。情報を得て政策決定に関わり、その決定や結果に責任を持つ。情報や意見を共有し合意形成を図りながらまちづくりを進めていくということです。

大学は地域住民とも、また行政や政治のキーパーソンとも比較的に接点を持ちやすい存在であり、専門的知識も持っています。住民の悩みや地域の課題を拾いあげ、政治家や行政の担当者にはアリンク調査を行って問題の解決策を考えていくという役割を大学は担うことができます。地域デザイン科学部がまちづくりのなかでの、情報共有の拠点として育ってほしいと思います。

投票箱：「栃木県選挙管理委員会」協力

OB. OG. INTERVIEW

東京経済大学 准教授

Chikako NAKAGAWA
中川 知佳子

先生になる夢、 大学教員になって叶える



東京経済大学経営学部中川准教授とゼミ生たち



■ 中川 知佳子 Chikako NAKAGAWA

2002年、宇都宮大学教育学部中学校教員養成課程英語科卒業。04年、University of Edinburgh 修士課程修了【MSc】。05年、筑波大学教育研究科修了【修士（教育学）】。07年、筑波大学人文社会科学研究科前期修了【修士（言語学）】。10年、同博士課程修了【博士（言語学）】。06年～10年、千葉商科大学商経学部非常勤講師。07年～10年、日本学術振興会特別研究員【DC1】。10年～12年、東京経済大学専任講師。12年～13年、中央大学文学部兼任講師。12年～現在、東京経済大学准教授。

本学教育学部OGである中川知佳子先生は、現在東京経済大学経営学部の准教授として活躍中です。私たちがあらかじめ想像していたイメージ通り、先生はさわやかな印象で研究室も女子力満点の素敵なお部屋！ゼミの学生さんも明るく屈託のない感じで、とてもいい雰囲気の研究室でした。そんな素敵な中川先生に、本学を卒業してから大学教員として活躍するまでのお話をうかがいました。【写真上・東京経済大学にて後列中央／中川知佳子准教授、右／本誌企画広報課学生スタッフ／宇都宮大学工学部3年・松山大介、左／同・高梨 鼓、前列右から／中川ゼミ生／東京経済大学2年・林朋香、同・角田彩、同3年・石川昂也、同2年・松下裕亮（敬称略）】

■ 執筆した教科書が母校で使われて

「栃木県内に残って教員になることが夢の一つだったので教育学部を選びました」と中川先生。栃木県田二宮町に育ち、真岡女子高等学校から宇都宮大学教育学部中学校教員養成課程英語科に入学した。「英語科で英語教師を目指すには英語のプロにならなくてはと思い、そのためには留学をしなければ考えました」ワーキングホリデーを使って学生のうちに留学しようと考え教授に相談すると、「留学は奨学金を得て正規の留学をしたほうがいい」とアドバイスを受けた。宇

こともありましたね（笑）。かなり鍛えられましたけど今となってはいい思い出です」

また、当時英語科の同期は10名で、人数が少ない分団結力は強く、いつも一緒に行動していたという。当時のメンバーは県内の教員や市の職員などで活躍しており、今でも連絡を取り合い年に一度程度は会って旧交を温めあう。

「当時はほんと英語科は仲が良くって、いつもみんな一緒にいましたね。ここでは言えないような（？）はっちゃけた思い出もあり、今でもいいお付き合いをさせていただいています」

■ 貪欲に学んでほしい

最後に、後輩の宇大生にぜひ伝えたいこととして、次のように話してくれた。

「学生の皆さんには、大学にいるうちに貪欲に学んでほしいですね。これから社会に出ると、なかなか丁寧に教える機会が「先生」はいなくなります。学生のうちがチャンスだと思って、どんどん積極的に先生とコミュニケーションをとり、知識のみならず論理的な思考や議論の進め方など、あらゆるものを学んでください。自分が教員となった今、改めて学生を見ると、自分から積極的に動き、先生から情報を得ようとする学生は間違いなくチャンスをつかんでいます。とことん今の学びを追究して、実りあるキャンパスライフを過ごし将来に羽ばたいていただきたいと思いますね」



◆ 初めての取材で 工学部3年 高梨 鼓



私は今回、初めてインタビューをしたため、はじめはとても緊張していて、質問も思いつかず、うまく取材ができていませんでした。しかし、中川先生はとても優しく、緊張もほぐれ取材を楽しんでいる私がいま、私は中川先生のように自分の目標をいつも心に持ち、少しずつでも到達できるように努力したいと思いました。

◆ 取材を終えて 工学部3年 松山大介

今回取材を受けてくださった中川先生の雰囲気がとても明るく、とても楽しい取材でした。研究職というあまり身近ではない世界の話に緊張していましたが、学生時代の教育実習の苦労などを通して今の学生の自分と親近感が生まれ、とても興味深く聞き入りました。この取材を通して今まで見ることのなかった新たな職業観を得ることができたと感じています。



【取材：松山大介・高梨 鼓／文・写真：アートセンターサカモト・栃木文化社 ビオス編集室】 *在学生の学年は取材当時のものです。

執筆なども依頼されるが、その教科書が母校の真岡女子高に採用されていた。「母校で使われているのは嬉しいですね。宇大の同級生だった友人が母校で教えていて「知佳ちゃんの書いた教科書を使っているよ」と言われ、本当に嬉しかった。教員になりたいという夢も、大学教員となって叶えられたなと思いました」

■ 研究を続けていくうえで の目標とは

中川先生のご専門は、第二言語習得や英語リーディング研究。現在のテーマは「第一言語と第二言語における文理解と語彙記憶の変化」???。とっても難しくそうだが、先生にわかりやすく解説していただいた。

「私たちが英語を読んだり聞いたりする場合、どのように意味を理解しているのかを研究の対象としています。同じ文章を読んでも人によってイメージされる状況が違ったり、理解に差があったりしま

■ 大学時代のエピソード

「今までも分担執筆としてほかの先生に協力する形で一部を執筆させていたのですが、出版されている先生には憧れを感じますね。今後は地道な研究成果を積み重ね、きちんと評価を受けたうえで研究成果を社会に還元すべく、著書として幅広い方々に手に取っていただければこれ以上の喜びはありません」

大学教員として歩む中川先生だが、意外にもアメフト部マネージャーとして活躍していたという。大学時代の一番の思い出は、教育実習だった。「教育実習で実際に教壇に立った時、英語の授業はすべて英語で行わなければならず自分が受けてきた教育と異なる教え方で指導しなければなりませんでした。また授業時間外の生徒の指導、たとえば掃除の指導などは素直に言うことを聞いてくれません。精神的に追い込まれ泣いちゃう

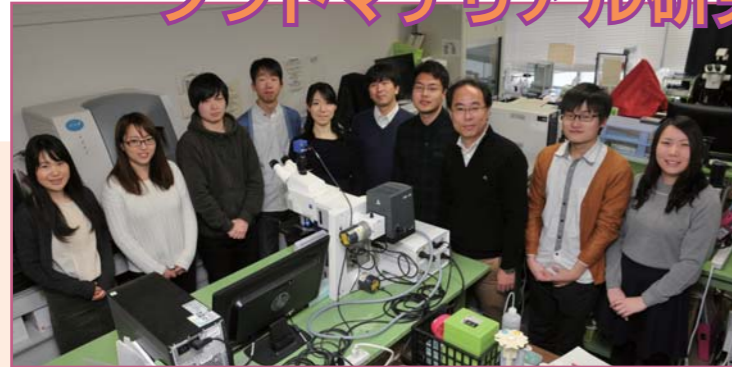


写真上：宇都宮大学教育学部中学校教員養成課程英語科卒業式（中列左から3人目）
写真下：ロータリー財団の奨学生として留学したスコットランドで（前列左から3人目）



Welcome to 研究室&ゼミ

工学部 応用化学科 ソフトマテリアル研究室



● 研究室概要

医薬分野で利用するゲルやコロイドなどソフトマテリアルの創成、細胞膜モデル、細菌感染症を予防する新技術、バイオフィーム形成を阻止する新技術など、遺伝子解析、界面化学、分子生物学、企業化を目指した材料開発までが研究対象です。再生医療に用いる新規細胞足場材料を、マイクロ流体デバイスで作成する新技術開発などに精力的に取り組んでいます。

加藤紀弘 教授

● 教員から

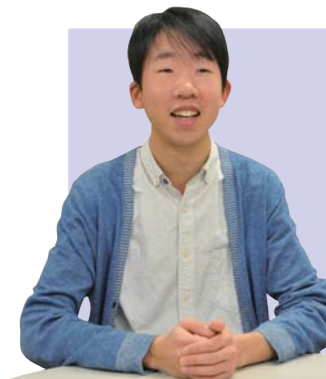
● 毎日の実験や議論を通じてステップアップしながら研究のおもしろさがわかってきます。将来の目標や希望も変わっていきます。この研究室は高分子化学、分子生物学、微生物学、製薬など多岐にわたる分野を扱っており、多くのことに挑戦できます。

自分が何をやりたいのか、どんな研究が自分に合っているのか、小さな世界にはなかなか分からない。世界を見て、広い視野を持たないと判断できないものです。できるだけ多くの学生が学外で発表するチャンスを作り、修士、博士課程の学生とは海外で

開催される学会と一緒に参加することも多いですね。研究成果を自ら発表し、様々な経験を積んで自ら考え、その上で自分が進む道を決めてもらいたいと考えています。

何よりも夢を持って研究することが大切だと感じます。夢のカタチは人それぞれです。分からなかったことを解明するという夢もあるでしょうし、人の役に立ちたいという夢もあると思います。一人ひとりの夢を応用化学分野の中で実現していく。それがこの研究室が目標としているところです。

● 学生から



応用化学科4年
阿部祐斗

● 生物に関する研究をやりたくて、この研究室を選びました。今取り組んでいるのは、微生物を利用して生活排水や工場排水をきれいにする「膜分離活性汚泥法」に関する技術です。微生物が集団として物質生産を引き起こすクオラムセンシングという機構でバイオフィーム（微生物が形成する「ぬめり」）が形成され、水処理の現場では膜が目詰まりなどが起こり困っています。微生物にこのバイオフィームをつくらせないようにする研究をしています。微生物は小さいけれど、はかり知れない可能性を持った生き物なので、そこに魅力を感じています。

● 私は「界面」に関わる研究をしています。最初は「界面」と聞いただけでは化学のおもしろさはわかりませんでした。石けんの界面活性剤の働き（性質の異なる2つの物質の境界に働きかける機能）を知り、身近な現象を、一つ一つの分子の動きで理解する化学の研究に興味をひかれました。分子レベルの実験なので、目に見えないところが少し難しいですが、逆に見えないところでどんな現象が起きているのか、分かってくると楽しさを感じます。とても興味ある分野なので大学院に進み、この研究室で勉強を続けることを決めました。



応用化学科4年
枝 真住

● この研究室は生物工学と機能性材料を融合した、オリジナリティの高い研究をめざし、幅広い分野が学べます。私は今、マイクロ流体デバイスという小さな手作りの装置で、高分子素材からヒドロゲルをつくる技術に取り組んでいます。直径が数ナノメートルの細いファイバーが集まり束になった特徴的な構造です。細胞を播種し細胞組織をつくるための足場材料に応用し、再生医療に利用できたらと考えています。研究装置も充実しているので、いろいろな研究に挑戦できます。新しいことに挑戦し続ける研究者になりたいという目標が見つかったのもこの研究室で勉強したからです。

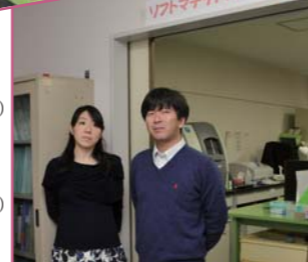


工学研究科
システム創成工学専攻
博士後期1年 高山友理子



飯村兼一 准教授 (写真右)
界面活性剤の分子膜における構造と機能について研究

奈須野恵理 助教 (写真左)
微生物が専門で、研究室では遺伝子の解析を担う



● 授業概要

学術英語講読は、3年次、4年次に英語による資料や専門書を読むための読解力をつける授業です。学生は自分の関心に応じて様々な分野の8人の教員から1人を選び、少人数クラスで英文読解の訓練を受けます。私のクラスではアメリカ研究の事典を教材に、受講生がみな毎回参加する精読を行っています。

米山正文 准教授



● 学生から



国際文化学科2年
伏田真季

● 中国に興味があって3年生の時に1年間上海に留学しました。中国だけではなく様々な国の人たちと出会う中で英語が世界の共通語であるということを感じました。もともと英語は苦手ですが、留学をきっかけに英語の勉強、特に英語の文章を構造的に見ていくことや文法に

注意しながら文章を読むことの大切さ気づきました。帰国後、「学術英語講読」を選択する時に自分の学びたいものと米山先生の授業内容が一番合っていると考えると、先生の授業を選びました。ちょっと遅くなってしまいましたが、英語を本格的に勉強しようと思っています。



国際文化学科4年
飯山ももこ

● 学術英語講読は先輩から「学術論文の長文読解があるので授業についていくのが大変」と聞いていたので、少しでも内容的に興味を持てる授業を選ぼうと思いました。前期に受けた米山先生の「アメリカ文学史」の授業が面白かったので、引き続き先生の授業をとることに決

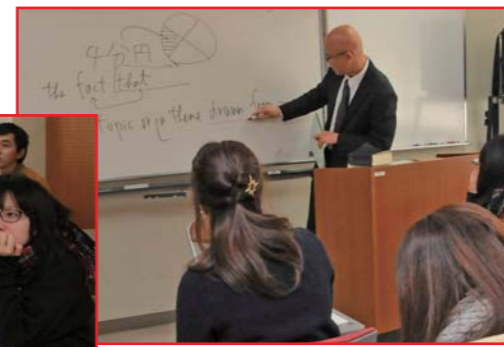
めました。先生は学生の質問にも真摯に対応して下さいますし、ユーモアもある方なので授業を受けていても楽しいです。教材の学術文献は文学書と違って事実が淡々と書かれていますが、自分の知識と照らし合わせながら読んでいくことで理解が深まっていくことを感じます。



国際社会学科2年
長谷沙樹

● もともとアメリカに興味があったので、英語で話せるようになりたいと思っていました。予習をしないと授業についていくのが大変なのですが、その分、学ぶことも多いと感じます。(ファストフード、ショッピングモール、セレブ、ディズニelandなど) あまり読むことがな

かった題材なのですが、幅広いテーマを扱いますので飽きがこないし、応用的なことを学べます。英単語も今までは辞書の最初に出てくる意味ばかりで捉えていましたが、アメリカ人にしか分からないような意味があることも学べ、新しい発見があります。



*在学生の学年は取材当時のものです。

研究 Keyword

限界地域と向き合って — 私の研究遍歴 —

農学部農業経済学科 教授 安藤 益夫

UU laboratory

PROFILE

宇都宮大学農学部農業経済学科卒業後、1981.4~1993.9 近畿中国四国農業研究センター研究員。1993.10~2000.3 東北農業研究センター研究室長。2000.4~2005.3 国際農林水産業研究センター主任研究員。2005.4~2008.5 中央農業総合研究センター研究調整役。2008.6~2015.3 国際農林水産業研究センター社会科学領域長。2015.4~ 宇都宮大学農学部教授



農学部農業経済学科 教授 安藤 益夫

はじめに

私は、本校農学部農業経済学科卒業後、2015年3月まで30年間、農林水産省の研究機関で働いておりました。学部卒でしかも特に真面目に勉強したわけでもない私が、いきなり農業研究現場の第一線に放り出されたわけですから、就職直後の数年間は研究に馴染めず、いつも転職を考えていました。幸いにも、良き先輩たちに恵まれた。文字通り「手とり足とり」、研究のイロハを教えて頂き、私自身もそれに応えるべく無我夢中で関連学術書を貪り読んだ記憶があります。

当時は、現在のような研究プロジェクト体制による成果主義ではなく、研究室体制でじっくり基礎研究ができる古き良き時代でした。今にして思えば、この時期の読書蓄積が、その後の研究のベースとなっている気がします。

■ 高齢・過疎問題

私の研究は、大雑把には国内と海外に二分されます。最初の約20年間は日本の中山間農村における高齢・過疎問題、残り10年間は東南アジアの貧困問題です。要するに、国の内外を問わず、

した。そこでは低収量で不安定な天水稲作生産構造を分析するとともに、製糖会社との不利な契約条件のもとでの低収益なサトウキビ経営の実態解析もしました。

さらにここ5年間(2011~15)は、最貧国・ラオスを対象に焼畑陸稲作で生計を立てる山岳少数民族の貧困解消に挑戦すべく、日本の農業技術研究者とともに現地実証型総合研究プロジェクトを立ち上げ、ラオス国立農林研究所やラオス大学と共同研究をしました。

途上国農民は、資金力に乏しく機械などの労働手段も持たず、言わば裸の労働力で直接、自然と対峙しているのが現状です。当然、早魃や洪水などの自然変動に対する抵抗力もありません。さらには種子から栽培技術に至るまで、外国企業に依存した経営構造ゆえに、

農民自身が主体的に意思決定できる領域は極めて限られており、内発的に発展しようとする芽が育ち難い構造になっています。正直なところ、途上国農業経営の不安定性と脆弱性を払拭するのは至難の業であることを吐露せざるを得ません。

以上のような研究遍歴を踏まえると、私の研究者としてのアドバンテージは、日本だけでなく途上国での経験をも活かした複眼的あるいは両生類的視点で、農業・農村問題を考えることができることかもしれません。実学を重んじ、地域貢献をミッションとする宇都宮大学に来てまだ1年足らずですが、今後はこのアドバンテージをさらに強化するとともに、それを学生指導や地域貢献の場にも還元していきたいと思っています。



北タイ調査の帰路で (右が安藤教授)



学生時代から変わることのない宇大のフランス式庭園にて (2016年1月撮影)

わたしの学生時代

研究のおもしろさ、厳しさを教えてくれた恩師と同じ道へ

昨年4月に茨城県つくば市の研究所から母校宇都宮大学の教員になりました。それまで30数年間ずっと農林水産省傘下の研究所で働いていましたので、年はとっていますが、真正銘の新米教師です。私が宇大に入った1975年は、全国的には学生運動の波が収まりつつあった時期でしたが、何故か、宇大は続いておりました。バリケードで正門が封鎖されて前期試験が中止になり、機動隊が学内に入ったことを今でも鮮明に覚えています。何度も授業がボイコットされるのを目の当たりにして、「別の大学に行こうかな」とも思っていました。サークルには入っていませんでしたが、友人3人で「アイ・ミー・マイン」というグループを結成し、アコースティックギターでビートルズなどを歌って、学祭で演奏したりして楽しんでいました。



アメリカ・サンフランシスコのユニオンスクエアで (大学2年生の夏休み)

授業がほぼ無かった(正確には、出来なかった)1年生の時には、語学が好きで自分なりに英語だけは勉強していました。

好奇心旺盛の頃で、特に海外に興味があり、2年生の夏休みには1ヶ月位1人でサンフランシスコに滞在しました。70年代のアメリカの若者とじかに触れた機会は、私にとって大変良い経験となりました。ですから、40歳過ぎた頃、海外での研究の話があったときも、学生時代と同じような好奇心で行きました。

学内紛争も落ち着いてきた2年生後半頃から、専門の農業経済の授業も入ってきたので「じゃあ勉強でもしようか」とがんばり始めました。指導教官だった野村浩士先生は、30歳前後に助手として、私と同じように農林水産省の研究所からきた方でした。午後1時から始めて夜の8時まで続くほど、先生の情熱が感じられたゼミでした。若くして大学に来られて「これから研究やるぞ!」という雰囲気やポンプンする方だったので、研究者としてのエートスとか魂みたいなのを肌で感じる事ができました。週に1回のゼミなのに、その準備のための多忙さと強いプレッシャーだけが記憶に残っています。でも、このゼミで研究の厳しさとおもしろさを教えられ、そのことが結果的に、恩師と同じ道を歩むことになったのかもしれません。

30数年目にして母校に帰ってきて、農学部女子学生が半数近くいることにびっくりしました。私が学生の時の農業経済学科は、女性は1割もいませんでした。「農」を取り巻く環境変化を、学生を通してあらためて感じています。 安藤 益夫

My Campus Life

■ 途上国農業開発研究

2000年以降は、東南アジアを対象に、所得向上を目指した農業経営の持続的発展に関する研究に従事しました。特に2001~04年にはタイのコンケン大学農業経済学科に駐在し、最貧地域と称される東北部農村を拠点にフィールド調査三昧の生活を送りま

りました。そして、そのためには基幹的男子労働力に拘泥せず、女性、高齢者のパワーを如何に上手に引き出すかということでした。この成果は、単著『地域営農集団の新たな展開』に結実するとともに、今日の地域づくりにも敷衍できるインプリケーションだと思っています。



調査村での送別会 (左から2番目が安藤教授)



「第12回キャンパスベンチャーグランプリ東京」で大賞受賞

— 本学工学研究科博士前期課程2年・高橋庸平さん —

学生によるベンチャービジネスのアイデア・事業プランを競うコンテスト「第12回キャンパスベンチャーグランプリ東京」(2015年12月4日)において、工学研究科博士前期課程2年の高橋庸平さんを代表とする本学の学生グループが発表した「イチゴソムリエによる『Kanjuku-Ichigo』のブランディング事業」が最高位の大賞およびカネパッケージ起業支援賞を受賞した。

このプランは、日本にしかない「大粒完熟イチゴ」を宇大発ベンチャーが開発した包装容器「フレッシュ®」を使って、高級果実として世界に流通させることを目指している。

高橋さんは、大学の研究室でイチゴに手を触れずに収穫できるロボットや長距離輸送でも高品質にイチゴを保つことが可能なフレッシュ®の研究に携わってきた。現在は、イチゴの外観や品質を評価するロボットを開発中で、このロボットによる評価をイチゴのブランディング化に結びつけていくことを考えている。イチゴソムリエは、生産者・消費者に完熟イチゴを広く浸透させる役割を担い、完熟イチゴの収穫、輸送のノウハウを持ち、ブランド保証・普及活動などに当たる。

高橋さんは「僕たちがやろうとしていることが認められ自信が持てた。これから先に向かって頑張れる。サポートしてくれる人が周りにはいると思えたことがとても大きかった」と受賞の喜びを語る。

高橋さんたちは当面、所属する学内のビジネスサークル「SWIEAT」の活動の一環として「完熟イチゴ」の学内販売をスタートさせ、事業化の道を探っていくことにしている。



宇大「UUプラザ」前で「完熟イチゴ」を販売



左から「大賞」受賞メンバーの阿部有貴さん(工学研究科博士後期課程2年)、高橋さん、「SWIEAT」のメンバーの佐藤友幸さん(工学部4年生)

「IBMメインフレーム・コンテスト2015」にて優秀賞を受賞 — 工学部3年・千葉裕也さん —

世界の約40カ国で開催されている学生向けプログラミング・コンテスト「IBM Master the Mainframe Contest 2015 (メインフレーム・コンテスト2015)」で、工学部3年の千葉裕也さんが優秀賞を受賞した。(1月21日)

このコンテストは社会基盤を支えるIBMメインフレームにパソコンからアクセスし、ガイドに沿って課題に取り組み最後にプログラムを開発、その品質を競う。千葉さんは情報工学科の掲示板でこのコンテストを知った。「大学の空き時間に何をしようか考えていた時で、コンテストの参加を決めた」という。

コンテストは速さを競うものではなく、千葉さんは自宅のパソコンからアクセスし、約1ヵ月かけて課題に取り組んだ。

「まったくプログラミングの経験がない状態で大学に入学しから学び始めたのですが、ここまでたどり着けたなという思いです。授業で学んだことが全てコンテストの課題をクリアするために役立った。学んだことがちゃんと身に付いて力になっていることを実感できたことが一番うれしかった。これから研究室に入りますが、次のステップでも頑張りたい」と話している。



写真右上：千葉さん(宇大UUプラザで)。写真右下：ラスベガスにて開催されたIBM InterConnect2016で同じく優秀賞の胡晟さんと。コンテストで使用したz13というIBM製品のメインフレームの横で。写真左：日本アイ・ピー・エム社にて行われた授賞式

* 在学生の学年は取材当時のものです。

2016年アジア自転車競技選手権大会日本代表選手に選出される

— 農学部3年・雨澤毅明さん —



写真上：愛用のロードバイクと。宇都宮大学で
写真下：アジア大会で(先頭が雨澤さん)

自転車競技の国内トップチーム「宇都宮ブリッツェン」に所属しプロロードレーサーとして活躍する農学部3年、雨澤毅明さんが2016年アジア自転車競技選手権大会(1月23日、伊豆大島)の日本代表選手に選出され、日本人最高位の6位でゴールした。

雨澤さんは高校から本格的に自転車競技を始め、大学1年生のときにプロチームの「那須ブラーゼン」に加入、昨年末、宇都宮ブリッツェンに移籍した。日本代表に選ばれたのは初めてで、今回のレース結果については「優勝とか日本選手で表彰台独占を目指していたので、満足していません」と話す。

3月から4月にかけて日本代表としてヨーロッパのレースに参戦し世界トップレベルの選手たちと競う。「本場のヨーロッパで実績を残せるような選手を目指したい。東京オリンピックを意識しているところはあります。そこまで行けるかどうか分かりませんが、頑張りたい」。大学の授業がある日は1~2時間、週末は3~5時間、トレーニングで宇都宮周辺を走る。取材の日も、4時間半で130キロ走ったという。

学業との両立も大切にする。「大学生活は人間関係を深めたり、自分の視野を広げられる場所です。自転車だけでは視野が狭くなり世の中が見えなくなってしまう。サークルで自転車愛好会に入っていますが、同じ自転車好きの人と話をするのも楽しい」

大学卒業後1年間は自転車競技に集中することを決めている。「練習を積めば、レースで結果が出る。練習する分だけ自分に実力がつくことがわかった。それが自転車を続けてきた理由です。練習すればまだまだ先に行けるという感覚がある。自転車で自分の限界を見極めたいという思いがあります」

日光観光案内アプリ提供開始(工学部)

宇都宮大学工学部と中央大学経済学部は、2014年度から2016年度の3年計画で、総務省からの受託研究「観光客の満足度向上のための情報提供技術の研究開発」(戦略的情報通信研究開発推進事業[SCOPE]:地域ICT振興型研究開発)を実施している。本研究開発の一環として、「日光観光客の満足度向上検討委員会」を設立し、日光市をはじめ関係者との連携により、日光駅から東照宮までの沿道や店舗に設置されたビーコンを利用した観光案内システム用のiPhoneアプリケーション「日光仮面ナビ」の配信を2月に開始した。

「日光仮面ナビ」は、日光の観光情報の配信だけでなく、設置されたビーコンに反応して日光の歴史・文化等に関する情報などを表示し、日光の歴史に触れることができるように設計されている。

道案内アプリではGPSの利用が一般的で「電池の消費が大きい」「店舗内では使えない」などの課題もあるが、ビーコンを利用することでスマートフォンの電池消費を抑え、店舗内を含めたきめ細かな情報提供が可能になると期待されている。



写真左：日光市観光協会のゆるキャラ「日光仮面」が案内するスマートフォン表示画面
写真右：ビーコン外観(直径約4cm、厚さ約2cm)

宇都宮大学基金へのご協力をお願い

日頃より宇都宮大学の教育・研究・社会貢献活動に温かいご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。宇都宮大学基金では、次の事業を行うことを目的に、寄付をお願いしております。

- ①学生・生徒・児童等に対する支援
 - ②国際交流の支援
 - ③教育研究活動等への助成
 - ④キャンパス環境の整備・充実
- 詳しくは宇都宮大学基金ホームページをご覧くださいか、事務局までお問い合わせください。

http://www.utsunomiya-u.ac.jp/kikin/
○お問い合わせ先：宇都宮大学基金事務局 TEL：028-649-8177
E-mail：kikin@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

**峰キャンパス**

国際学部 / 教育学部 / 農学部
 〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
 (代表) 028-649-8172

**陽東キャンパス**

地域デザイン科学部 / 工学部
 〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東7-1-2
 地域デザイン科学部 (代表) 028-689-6233
 工学部 (代表) 028-689-6005

企画・編集

宇都宮大学 UUnow 第39号編集委員

編集委員

中村 祐司 地域デザイン科学部教授
 中野 達也 地域デザイン科学部准教授
 小原 伸一 教育学部教授
 江川千佳司 工学研究科教授
 飯山 一平 農学部准教授
 加藤 文雄 企画広報課職員
 渡邊 文彦 企画広報課職員
 五月女優子 企画広報課職員

取材アシスタント (企画広報課学生スタッフ)

松山 大介 工学部4年
 高梨 鼓 工学部4年
 宇都宮大学オリジナルキャラクター「宇〜太」

発行責任者

藤井佐知子 理事 (企画・広報担当)

編集協力

アートセンターサカモト・栃木文化社ビオス編集室

企画広報課では、皆さまの声をお待ちしております。

ご意見・ご要望などをお寄せください。

【宛先】宇都宮大学 企画広報課

〒321-8505

栃木県宇都宮市峰町350

TEL : 028-649-8649 / FAX : 028-649-5026

E-mail : plan@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp



宇〜太、Twitter やってます！

@uuta_uuchara

宇〜太オリジナル LINE スタンプ

「宇〜太のキャンパスライフ」できたよ！


宇都宮大学
 携帯サイトへGO!
<http://www.utsunomiya-u.ac.jp>**附属小学校初等教育公開研究発表会**

研究主題「どの子も熱中する授業をつくる」

第1日 6月7日 (火)

生活科・道徳・英語の時間・総合の時間・特別活動の研究授業及び授業研究会

全体会：講演会 劇作家・演出家 平田オリザ 先生

第2日 6月9日 (木)

算数科・理科・音楽科・家庭科の研究授業及び授業研究会

全体会：講演会 文部科学省視学官 田村 学 先生

第3日 6月10日 (金)

国語科・社会科・図画工作科・体育科の研究授業及び授業研究会

全体会：講演会 玉川大学教授 谷 和樹 先生

場 所：教育学部附属小学校

○問い合わせ先：宇都宮大学教育学部附属小学校 TEL : 028-621-2291

○その他：教職員対象の研究会です。一般の方はご遠慮頂いております

附属特別支援学校運動会

日 時：6月11日 (土) 9:20~14:20 雨天順延

場 所：教育学部附属特別支援学校 校庭

内 容：小学部児童、中学部・高等部生徒の演技など

※受付でプログラムをお受け取りください。

○問い合わせ先：教育学部附属特別支援学校 TEL : 028-621-3871

附属幼稚園公開研究会

研究主題「子どもの豊かな暮らしを創造する幼稚園の環境」(4年次)

日 時：6月25日 (土) 9:00~16:00 (予定)

内 容：公開保育及び保育研究会、講演

場 所：教育学部附属幼稚園

○問い合わせ先：教育学部附属幼稚園

TEL : 028-622-9051 FAX : 028-625-8016

e-mail : fuyo@cc.utsunomiya-u.ac.jp

夏のオープンキャンパス2016

今年も宇大はオープンキャンパスを開催します！

宇都宮大学ってどんなところ？どんな先生がどんな授業や研究をしているの？入学するには？就職は？パンフレットだけではわからない、いろんなことがわかります。「夏のオープンキャンパス2016」に参加して、ぜひとも宇大の魅力を感じてください。

日 時：7月18日 (月・祝) 9:30開始

※詳細なプログラム等、決まり次第本学公式Webサイトで順次お知らせしていきます。また、昨年度のオープンキャンパスの内容についても公開していきます。

○問い合わせ先：企画広報課広報係 TEL : 028-649-8649

第4回ホームカミングデー

宇都宮大学では、卒業生の皆さまと現役の学生・教職員との連携・親睦を深める機会として、ホームカミングデーを開催しております。

第4回目は、前回に引き続き峰ヶ丘祭の開催に合わせて実施させていただくことになりました。この折に母校の現状をご紹介させていただくとともに、同窓生・学生・教職員が旧交をあたためただけだったら幸いと存じます。

つきましては、万障お繰り合わせの上、是非ともご参加くださいますようご案内申し上げます。

※詳細なプログラムは決まり次第本学公式Webサイトでお知らせいたします。

Webサイトでは昨年度のホームカミングデーの内容についても公開していきます。

日 時：11月19日 (土)

場 所：国際学部・教育学部・農学部・・・峰キャンパス

工学部・・・陽東キャンパス

○問い合わせ先 企画広報課企画調整係 TEL : 028-649-8647